
OB 通信

2009 年 No.2

(2009.6)

第 62 回東北学生陸上競技対校選手権大会

- ・表彰台多数!!男子総合 4 位、フィールド 2 位の健闘!!
 - ・今泉卓真(4)がハンマー投げで 53m44 の部記録樹立
 - ・及川まりや(1)が女子 1500m で 4' 44" 58 の部記録樹立
-

お知らせ

- ・三秀会関東支部から「七大戦 OB・OG 懇談会について」
-

～目次～

・春合宿	2 ページ
・日本学生ハーフマラソン	2 ページ
・東北学連春季競技会	3 ページ
・宮城強化記録会・仙台市長距離記録会	3 ページ
・宮城県春季陸上競技選手権大会	3 ページ
・春季三秀総会	4~5 ページ
・第 62 回東北学生陸上競技対校選手権大会	6~16 ページ
・自己記録更新者一覧	17 ページ
・三秀会関東支部からのお知らせ	18 ページ
・今後の予定、編集後記	20 ページ

初夏の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。本年もどうぞ東北大学陸上競技部をよろしくお願い致します。

今号では、主に第 63 回宮城県駅伝競走大会、第 25 回宮城県女子駅伝競走大会、日体大記録会、第 62 回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果をお伝えいたします。

春合宿(3/9~13) 於 栃木県総合運動公園

今年も恒例の春合宿が行われました。

昨年は競技場改修工事のため合宿所のある本競技場が使えず、全天候のトラックを使うには遠くの競技場に行かなければなりませんでしたが、今年は問題なく使えました。

今年目立ったのが怪我人でした。肉離れなど多数の負傷者を出してしまいました(おもに短距離)。北大にはアキレス腱を断裂した人もいました。体調管理の面で大きな課題を残した合宿でした。

第 12 回日本学生ハーフマラソン(3/8) 於 立川市

3 月 8 日(日)、今年も東京都立川市にて第 12 回日本学生ハーフマラソンが行われました。もはや恒例となりましたが、冬季練習のまとめとして今年も東北大からは多くの部員が参加しました。

■男子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
斎藤 純(M1)	1°07'01"	203 位
大場 直樹(3)	1°09'34"	317 位
平 聖也(4)	1°10'35"	351 位
川口 亮平(M2)	1°10'58"	364 位
箭内 正輝(3)	1°14'49"	439 位
工藤 佑馬(2)	1°15'50"	458 位
早坂 達也(3)	1°16'19"	468 位
中道 尚史(4)	1°19'23"	513 位

■女子ハーフマラソン

氏名(学年)	記録	順位
永井 瑞希(M1)	1°21'56"	4 位
大淵 真波(M1)	1°22'30"	5 位
千葉 絵里子(3)	1°27'48"	13 位

東北学連春季競技会(4/11~12) 於 仙台市陸上競技場

今年もシーズン初戦の学連春季競技会が行われました。ちなみに、仙台市陸上競技場と宮城野原の陸上競技場が県から市に譲渡されたため、名称が変更されました。

今回、短距離は振るわなかったものの、中距離、投擲で初戦からベストを出すなど好記録が見られました。記録の一部を紹介します。

■800m

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
1組	8	田村 淳(2)	1'57"51	3着
	6	本間 亮太(3)	1'58"22	4着
	2	川口 亮平(M2)	1'58"81	5着

■ハンマー投

氏名(学年)	記録	順位
今泉 卓真(4)	52m27	1位



写真：前を引っ張る齋藤(右)



写真：10000m ベストを出した林(中央)

宮城強化記録会・仙台市長距離記録会(4/18) 於 仙台市陸上競技場

今回も短距離は振るわず、中距離で好記録が生まれました。男子 800m では本間(3)が 1 分 57 秒台と好調です。男子 1500m でもベストを更新した選手が 2 人。中距離種目は好調を維持しています。

■800m

組	氏名(学年)	記録	順位
7組	本間亮太(3)	1'57"96	2着

■1500m

組	氏名(学年)	記録	順位
4組	大場直樹(3)	4'09"54	8着
	早坂達也(3)	4'12"09	10着
	尾形洋平(2)	4'16"46	14着

#宮城県春季陸上競技選手権大会(4/25~26) 於 宮城スタジアム

利府町の宮城スタジアムで宮城県春季陸上競技選手権が行われました。

短距離では青柳(M2)が今季初の 22 秒台を出し、長距離では大場(3)が男子 5000m で 14 分台を出しました。また、400mH の柴田(4)は決勝に残り 6 位となりました。

■200m

組(風)	レーン	氏名(学年)	記録	順位
6 組(+0.3)	7	青柳 光裕(M2)	22"92	2 着
12 組(+0.4)	9	八木 洋光(M2)	23"34	2 着

■5000m

組	オーダー	氏名(学年)	記録	順位
3 組	10	大場 直樹(3)	14'55"69	4 着
	12	小林 和也(M2)	15'27"32	13 着
	15	島田 健作(M1)	15'32"79	15 着
	17	林 亮輔(M1)	15'38"61	17 着
	21	早坂 達也(3)	15'49"89	21 着

■400mH

組	レーン	氏名(学年)	記録	順位
1 組	7	柴田 智弘(4)	56"50	1 着
8 組	3	加藤 聡(M1)	59"30	1 着
決勝	7	柴田 智弘(4)	57"03	6 位

#春季三秀総会(4/22) 於 川内サブアリーナ

まず出席者一同で物故会員の方々に一分間の黙祷を捧げました。その後、佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長から挨拶がありました。

議長には中嶋啓太(M2)が選出され、会計の早坂(3)から 21 年度の器具備品費についての審議が行われました。内容は以下のとおりです。

21 年度会計早坂から 「21 年度器具備品費について」

・背景

今年度の一年生に「やり投げ」と「棒高跳」をやりたいという学生が数名います。これに伴い新しくやりと棒を買いたいのですが、すでに器具備品費で買うことになっているものが 26 万円ほどあり、このままでは予算 30 万円をオーバーしてしまいます。具体的には、最低でも新たにやりを 2 本、ポールを 1 本購入しなければならず、かなりおおまかですがこれら

で10数万かかると思われます。つまり、予算は10万前後オーバーします。ちなみに、やり投げをやりたい新入生は2人。棒高跳びは1人です。

・提案

科目の流用を認めて、他のところからお金を出す。

・質問

(1) どこからお金をもってくるのか

(2) 器具備品費の30万円内ではおさまられないのか

(3) 年間予算内でおさまらせるのか。

(1)に対する回答

昨年度の七大戦寄付の未使用分が、今年度予算の各勘定項目に振り分けられています。そのうち、器具備品費と遠征費・登録費補助に重点的に振り分けられています。振り分けた上で今年度の器具備品費予算額が30万円であり、これが足りなくなりそうなので、遠征費・登録費補助に振り分けられた分を中心に器具備品費として使用したいのです。

(2)に対する回答

購入するものに優先順位をつけて、できるだけ努力はいたしますが、おそらく30万は超えてしまうと思われます。

(3)に対する回答

さきほども述べましたとおり、七大戦の寄付金の昨年度未使用分が各項目に振り分けられていますので、その分から流用できれば、全体の年間予算額内で収まると考えております。

結論

競技をするうえで必要不可欠なものであるもので、それらを購入することで当初の予算をオーバーしてしまうならば仕方がない。よって、科目流用を認める。

また佐藤会長から評定河原グラウンドの問題についての報告と、1年生の自己紹介がありました。

参加してくださった先輩方(敬称略)

宮崎鉄男 小笠原卓 佐藤健二 佐藤源之 渡邊裕生 彦坂幸毅 菅野均志 中嶋啓太
川口亮平

#第62回東北学生陸上競技対校選手権大会(5/15~17) 於 仙台市陸上競技場

男子総合4位、フィールド総合2位でした。部記録も女子1500mと男子ハンマー投げで誕生し七大戦に弾みをつける結果となりました。

～主将より今大会の総括～

今泉 卓真

東北インカレ壮行会の前日に今年の総合得点を予想してみました。昨年、一昨年を越えたいと思っていましたが、予想得点は90点。他大の状況を見る限り4位は確実でした。当日他大の総合得点を書く模造紙を見ても、例年通り「東北大学」の名前はありませぬ。そんな中、2日目終了時点で東北大はなんと総合2位。3日目次第では表彰も期待できると思いましたが、だが、現実には甘くありません。福祉大、岩手大に次々と得点を許し、結局108点で総合4位。予想得点は超えたものの3位の岩手大学とは10点差と悔しい結果になりました。



東北インカレでは戦えない東北大学が何年も続いてきましたが、今年は違いました。昨年の七大戦で優勝し、一回り強くなったのだと思います。この調子で今後の大会も他大と対等に渡り合える東北大学を魅せていきたいと思ひます。これからも応援よろしくお願ひします。

トラック

男子100m予選

1-6 3着 八木 洋光 (M2) 11"20 (-0.7)
5-7 2着 青柳 光裕 (M2) 11"07 (+1.4)
4-2 6着 畠山 真慈 (1) 11"64 (+0.5)

八木は、右脚の怪我が不安要素であったが、故障を感じさせない好スタートを見せた。その後も順調に加速し、2番手と競りながら3着でゴール。プラス上げ6人中2番手のタイムで準決勝へ進出した。

青柳はスタートを決めて前半から先頭に躍り出た。リラックスした感じで、最後まで安定した走りをして、2着でフィニッシュ。着順で予選通過を決めた。

畠山は前半で他の選手に差をつけられた。ストライドの大きな走り後半徐々に追い上げたが、前半の遅れを取り戻せず6着。

八木、青柳は普段通りの安定感を見せた。畠山はデビュー戦で多少緊張が見受けられたが、まだ伸びる印象を受けた。

男子100m準決勝

1-6 4着 青柳 光裕 (M2) 11"06(+1.8)
2-7 8着 八木 洋光 (M2) 11"69(+2.7)

強い追い風でのレースとなった。

青柳はスタートから勢いよく飛び出した。序盤は周囲の選手が前に出ていたが、中盤からの加速で競り合い、4着でフィニッシュ。3着とは0"04の差であった。

八木は、予選では好調と思われたが、故障の不安を拭いきれない様子で加速が乗らず、四継も控えているためゴール前で減速、8着。

風が戦局を大きく分けた。2組目で10"7台が続出、青柳の決勝進出はかなわなかった。

女子 100m 予選

1-8 6着 岡村 菜花(1) 14"41(+1.5)

3-2 6着 房内 まどか(1) 15"03(+0.4)

日が隠れて風も吹き、少々寒い印象を受けるコンディション。1年生2人が出場した。

岡村は、隣の選手がフライング気味だったが、つられずに自分のスタートを切った。周りに離されるが、最後までしっかり走り6着でゴール。

房内はスタートで大きく出遅れた。差を詰めようと奮闘するも、6着でのフィニッシュ。

2人とも4月から練習を再開したばかりなので、今後の成長が期待される。

男子 200m 予選

1-3 5着 八木 洋光 (M2) 22"78 (±0)

2-6 4着 畠山 真慈 (1) 23"33 (-1.5)

4-6 2着 青柳 光裕 (M2) 22.51 (-0.8)

今大会は肉離れを警戒しながらのレースが続く八木。スタートは悪くなかったが、徐々に離され5番手で100mを通過。後半粘るが順位は変わらず5着でゴール。プラスには0"01届かなかった。

畠山はスタートに失敗。早くから上体が起き序盤で大差をつけられた。後半粘って猛追したが及ばず4着でフィニッシュ。体力だけでなく、フォームも改善の余地がある。

前日の100mで好記録を出した青柳はスタートから勢いのある走りを見せ3位で100mを通過。残り40mで1人をかわして2着となり、着順での予選通過を決めた。

準決勝には青柳ただ一人の進出となった。

男子 200m 準決勝

2-6 5着 青柳 光裕 (M1) 22"68 (-2.0)

前日の予選で好タイムを出し今大会好調の青柳。決勝進出が期待された。雨で向かい風も強いコンディションであった。

スタートは勢いよく飛び出し50m付近で外側の選手を抜き3番手で100mを通過。しかし直線で強い向かい風に苦しみ5着。決勝進出には惜しくも0"12届かなかった。

男子 400m 予選

1-7 4着 遠藤 智之 (3) 51"16

2-6 4着 高林 佑輔 (2) 53"36

4-8 7着 佐々木翔平 (2) 53"01

1組目には、長く好調を維持している遠藤が出場。スタートで少し抑え気味に入り、バックストレート付近で内側の選手に迫られる。しかし、そこから彼の気合補正で追い上げ、ラスト150mで加速し競り合い4着でフィニッシュ。50秒台には届かなかったが大学ベストを0"62更新した。

2組目の高林は4月中旬の原付事故による膝の故障、約1カ月のブランクから復帰したばかり。前半はまずまずだったが200mから失速。最後まで持ち直せず、4着でゴール。

3組目の佐々木は、前半は安定していて良かったものの、バックストレートで周囲の選手に並ばれる。第4コーナーで内側のレーンにはみ出し、こちらをヒヤヒヤさせながら健闘するも、7着。

遠藤が大学ベストをマークするも、他の2人は本来の力を発揮できなかった。3人ともマイルメンバーであるので、この分をマイルで取り返してもらいたいところ。

男子 800m 予選

- 3組 3着 田村 淳 (2) 1'58"49
4組 4着 辻川 優祐(1) 2'00"80
5組 2着 本間 亮太(3) 1'58"84

4月の記録会で1分台の好タイムをマークし、今季好調の本間、田村に加え、今季800m初レースとなる辻川が出場。本間、田村は足の故障も心配される中、1着+3での決勝進出をかけたレース。

3組目の田村は、良いスタートで集団前方につけ、レースを引っ張る。先頭は譲るも先頭集団で粘り1周目を58"23で通過。ラスト300m手前からペースアップし、再び先頭に。積極的な走りを見せるも、ラスト100mで力尽き、かわされ3着でゴール。

4組目の辻川はスローペースのレースで先頭集団につける。3番手に位置し59"53で1周目を通過。ラスト300mからのペースアップにもしっかり対応するが、残り200mで離される。ラスト100mは苦しい走りとなるも懸命に前を追い4着でゴール。

5組目の本間は余裕をもってスタートし、先頭集団前方でレースを進める。安定した走りのまま2番手に陣取り、59"20で1周目を通過。ラスト300~200mでペースアップし、トップと共に抜け出す。ラスト50mでさらにペースアップするも1位との差が縮まらず、2番手でゴール。

1、2組のペースが速かったのに対し、3~5組は遅めであった。1着+3の厳しい予選通過を考えると積極性が期待されたが、振るわなかった。新入生も多く入り、拡大した中距離パートの今後の活躍に期待したい。

女子 800m 予選

- 1組 6着 須藤 彰子(4) 2'37"00
2組 5着 荒木佳那子(2) 2'40"75

今季始めに自己ベストに迫る記録をマークし、決勝進出と自己ベスト更新の期待がかかる須藤と、怪我から復帰し今季初レースとなる荒木が出場した。

1組目の須藤はやや遅めのスタートで、集団後方から前を追う形。縦長の集団になり、トップ3人がとびだし、74秒で1周目を通過。粘るも前との差を縮めることができず、6着でゴール。実力を発揮できず悔しい結果となった。

2組目の荒木は最後尾からのスタート。スタート直後から集団にならず、トップは速いペースでレースを進める。スピードについていけず、76秒で1周目を通過。懸命に前を追うが、ペースアップできず、苦しい走りとなる。5着でゴール。故障上がりで苦しいレースとなったが、練習を積んで臨む次のレースに期待したい。

男子 1500m 予選

- 1組 8着 早坂達也(3) 機械不良記録なし
尾形洋平(2) 機械不良記録なし
2組 6着 川口亮平(M2) 4'03"66

3選手とも今季好調なため好記録・決勝進出が期待された。

1組目はややゆったり入り、尾形は集団の中ほど、早坂は後方につける。400m過ぎから集団は徐々に縦長となり早坂は集団の中位にあげるが、中盤に入り早坂・尾形ともに先頭集団から離される。早坂は残り300mからスパートし8着。尾形はスピードを上げられず残り200mでスパートするもラスト100mで後続に追いつかれゴール。

2 組目は比較的速いペースで進むも川口は集団の中盤につける。レースが進むにつれ他の選手がこぼれるなか、川口は着実に順位を上げラスト1周を迎える。一度7番手に落ちるも、粘りを見せ6着でゴール。

好記録はでなかったものの早坂・川口が決勝進出を確保した。

男子 1500m 決勝

6位 川口 亮平(M2) 4'03"22

12位 早坂 達也(3) 4'12"16

昨年は得点できなかった種目だけに、今年は何としても得点したいところであった。

レースはスタートからハイペースで入るも、川口は集団につかず6番手、早坂は14番手で400mを通過。川口は第2集団につき800mを7番手で、早坂は徐々に順位を上げる。川口は一旦集団から離されそうになるも耐え、1200mでスパート。他の選手を引き離すことができず苦しい走りとなるが、ラスト100mで切り替え、6着でゴール。早坂も残り300mでスパートをかけ12着。

白熱したレースの中、川口が本職で悲願の得点。これに続き更なる高得点・表彰台が期待される。早坂は、消極的なレース運びが裏目に出たように思われる。次は積極的なレースを期待したい。

女子 1500m 決勝

6位 及川まりや(1) 4'44"58

18位 大淵真波(M1) 5'08"72

22位 千葉絵里子(3) 5'19"70

3人とも4分台の自己ベストを持っており、大量得点が期待された。

スタート直後、集団は2つに分かれる。及川は前方集団につけ、400mの通過は72秒。

大淵・千葉は後方集団に位置し、400mは76～68秒。2周目に入ると9人だった第1集団は7人に絞られ、及川はしっかりとつける。800mは2分28秒。大淵は2分39秒、千葉は2分41秒。及川は1つ順位を上げ、6番手でラスト1周に突入。大淵・千葉はやや苦しい走り。ラスト1周に入ると上位5人が抜け出し、及川はついていけない。一方大淵・千葉は諦めずに前を追い、少しずつ順位を上げる。及川は上位5人には離されるも6位をキープし、4分44秒でフィニッシュ、得点を挙げた。大淵はバックストレートで順位を上げたものの、ラストは1人にかわされ5分08秒、千葉は5分19秒で後ろから2番目のゴールとなった。

及川は1年生ながら部記録を更新する力走であった。上級生2人は悔しい結果となったが、これからの奮起に期待したい。

男子 5000m 決勝

3位 大場 直樹(3) 14'54"74

6位 齋藤 純(M1) 15'02"00

10位 小林 和也(M2) 15'21"95

小林、齋藤、大場が出場。昨年大幅に自己ベストを更新し14分台を記録した、この種目のスペシャリストである小林と、10000mの雪辱をかける齋藤、大場に、大量得点の期待がかかった。

スタートは、3人とも集団の中で落ち着いてレースを進める。1000mは、先頭が3'02と、まずまずのペースで、齋藤は前方、大場は中盤、小林は後方につける。2000mを過ぎ、若干ペースが上がり始め、小林は先頭集団から離され始める。齋藤、大場は先頭集団の5,6番手で3000mを通過。ここから先頭集団が5,6人に絞られ、齋藤が先頭をうかがう動きを見せて2番手に上がり、大場が離さ

れ7番手に後退。小林は10番手付近で、大崩れせず、ペースを刻む。残り1000mを過ぎた所で、齋藤が苦しくなり後退し始める。大場は粘りを見せもう一度先頭集団に追いつく。ラスト1周で学院大と福祉大の2人の選手が抜けだし、先頭争いを演じる。大場は3位集団に位置し、齋藤はやや遅れ6番手に落ち苦しい展開に。スパート合戦の中、大場が順位を上げ、ラストで富士大とのデッドヒートに競り勝ち、3着でフィニッシュ。齋藤はラストにいつものキレがなく、6着。小林はラストをなんとか持ち直し、10着。

大場が自己ベストで表彰台にのぼり、齋藤、小林も、十分な練習時間が取れない中でシーズンベストを記録。中長種目で最大の得点を獲得した。



写真：表彰式での大場(右)

2000mを通過。大淵、千葉は20番手付近で2000mを通過する。永井は粘りの走りで前との差を詰め、2200m地点で前をとらえ、7位集団を引っ張る。大淵は何とか前に食らいつくも、千葉は前につけず、苦しい走りとなる。中盤、永井はペースが落ちるも前を譲らず、積極的に集団を引っ張る。永井はラスト600mでスパートをかけ、7位集団を抜け出す。しかし、ラスト1周で弘前大の選手に追いつかれ、熾烈な7位争いを繰り広げるもかわされ、8位でフィニッシュ。大淵は15位、千葉は21位でのフィニッシュとなった。

永井は、調子が悪いながらも意地の走りで得点を獲得。大淵、千葉は全女予選へ向け、復調に期待したい。

男子 10000m 決勝

5位	齋藤 純(M1)	31'32"63
6位	大場 直樹(3)	31'35"34
8位	島田 健作(M1)	31'45"42

齋藤、島田、大場の東北大エース3人が出場し、大量得点が期待された。今年から10000mのタイムレース方式となる全日予選を見据え、例年より各大学が力を入れた種目である。

スタートは島田、大場が集団中程、齋藤が後方につける。1000mは3'09とややスローペース、3人とも集団の中でレースを進める。1600m地点で齋藤が集団前方に位置取りする。2000mは6'20で1000m3'11ペース、3000mは9'33でこの1000m3'13とペースは落ち、先頭の福島大の選手が苦しくなる。このあたりから集団は縦長となり、4000mは12'48で通過、3'13のスローペースは変わらず、大場は2番手で前を窺う動きを見せる。徐々に先頭集団から人が離れ始め、12,3人となる。5000mは16'00。ここで大場、齋藤

女子 5000m 決勝

8位	永井 瑞希(M1)	18'09"34
15位	大淵 真波(M1)	19'06"49
21位	千葉 絵里子(3)	20'09"22

スタートは、先頭集団の3人が飛び出す中、永井は第2集団前方、大淵、千葉は後方につく。1000mを過ぎて集団がばらけ出し、大淵、千葉はつけない。2000m付近で集団が完全に崩れ、永井は9番手となり7'06で

が先頭に上がり、ペースを上げる。5600m地点で先頭集団は8人に絞られ、島田がその最後尾でやや苦しそうになる。齋藤、大場がペースを3'02に上げ、6000mは19'08で通過、6200mで島田が集団から離されるが、なんとか持ち直し前へつく。7000mは大場を先頭に22'12で通過、この1000mが3'08。齋藤は3番手、島田は集団から完全に離され、8番手で通過。7500m地点で齋藤が集団最後尾に後退する。8000m地点で大場は福祉大勢に先頭を譲り5番手、齋藤が7番手、島田が8番手。福祉大勢は集団でペースを上げ、大場は先頭集団から離れ始める。9000m通過で大場は3'07ペース、先頭から完全に離れる。齋藤は大場から8秒遅れて通過。9400m地点で齋藤がスパートし、大場を抜く。最後は齋藤が5位、大場が6位、島田が8位でフィニッシュした。

福祉大勢3人に前を許し、消極的なレース展開が裏目に出た。しかし3人全員が得点し、総合力を見せつけた。

女子 10000m 決勝

5位 永井瑞希 (M1) 37'41"11

永井は春先から調子は上がらないものの、出場人数が少なく、高得点が期待された。

福島大の古瀬が飛び出し、永井は2位集団につける。1000mは3'33"で4位通過。ここで先頭集団は5人にしぼられる。1600mで先頭集団から離れ、2000mは5位通過。ラップは3'39"。ここからは単独走となった後、2500m地点で後続に追いつかれ、6番手に後退。3000m、4000mのラップはそれぞれ3'45"、3'48"で徐々にペースダウン。5000mは18'47"で通過。6000mのラップは3'46"。7000mで前をとらえて5番手に上がり、ラップも3'45"と少し持ち直す。8000m、9000m

のラップは3'49"、3'52"とやや苦しい走りとなったが、ラスト1000mはしっかりと切り換えて3'41"でまとめ、5着でフィニッシュ。

調子が悪いなりに粘りの走りを見せ、意地の4点を獲得した。

男子 110mH 予選

1-5 2着 岩崎 辰哉 (3) 15"42(+1.7)

2-2 3着 永井 雅人 (D2) 15"67(-0.2)

出場者が10人という異例の少なさのため、2人とも予選通過は確実視された。

1組目には連休後半に故障から復帰した岩崎が出場。スタートは無難に決め2番手につけたものの、練習不足の影響か後続との差を広げられない。終盤、直後の選手に並ばれるも、着差なしの2着、決勝進出を決めた。

2組目には好調の永井が出場した。スタートでやや出遅れ、後方から追いつける展開。後半まで我慢のレースが続いたが、9台目で3番手の選手をとらえるとゴール直前でかわして3着となり自己ベストのタイムで決勝進出を決めた。

男子 110mH 決勝

3位 岩崎 辰哉(3) 15"39

7位 永井 雅人(D2) 16"02

予選とは風向きが変わって向かい風でのレースとなった。永井は1レーン、岩崎は3レーンからのスタートとなった。

岩崎は予選よりも良いスタートを決め先頭集団に食らいつくも、安定感に欠け、前の2人とはじりじり差を広げられる。後方とも差があったためそのまま3位でフィニッシュしたが、記録は低調。風は-1.2。

永井は予選同様、序盤で大きく遅れる。その後粘りの走りを見せ、7位でゴール。

今大会、短距離の個人種目では唯一入賞できた種目であったが記録が伴わず、今後の対抗戦に課題を残す結果となった。

男子 400mH 予選

2-8 7着 加藤 聡(M1) 58"37

3-3 4着 柴田 智弘(4) 56"98

2組目には加藤が登場。練習での300mHでは手応えを感じていた。3台目まで上位につけていたが、インターバルが若干詰まり、徐々に遅れた。ラスト100mで粘るも7着。

直前の壮行会では「ヨンパーらしく適当に決勝に」と宣言した柴田は3組目に登場。号砲とともにすばらしいスタートを見せ、1台目をトップで通過。しかし、ハードリングに本来のキレがなく200m通過時には3番手に後退。後半も悪い流れを払拭できず、4着。

残念ながら今回はヨンパーらしさが見られなかった。今後は実力の底上げが望まれる。

男子 3000mSC 決勝

26位 工藤佑馬(2) 11'14"25

10位 島田健作(M1) 9'34"24

19位 平 聖也(4) 10'03"04

対抗戦初レースの工藤は次期PCとして意地の走りを見せられるか。島田、平には得点の期待がかかる。

工藤は1組目に出場。集団やや後方からスタート。トップが1人飛び出し、集団が縦長になるも集団後方について粘る。1000m手前で遅れ始め、集団に離され単独走となる。懸命に前を追うが差を縮められず苦しい展開。ペースダウンを抑えられず、2000mを7'03"で通過。ラスト1000mも切りかえられず、終始苦しいレースとなり11分14秒でゴール。

島田、平は2組目で、落ち着いて集団後方からスタート。集団後方でレースを進めるが、1000mあたりで平が遅れ始めた(1000m通過:島田3'06" 平:3'09")。集団がばらけ始めるが、両者ともに先頭に付けない。島田は9番手で粘り、前との差を縮めながら懸命な走り。ラスト1周で追いつけるも差が縮まらず10着でゴール。平は単独走となり、ペースアップできない苦しい走り。ラスト1000mさらにペースを落とし、14着。

工藤は緊張もあったか、練習成果を存分に発揮できなかった。今後の取り組みに期待したい。島田、平は得点争いに絡めず残念であった。特に島田は前日の10000mの疲労が抜けていないようであった。みな実力を十分に出せずにレースを終えた。

男子 4×100mR 予選

1-3 3着 43"14

永井(D2)-青柳(M2)-畠山(1)-八木(M2)

院生3人を含めた出場となった。

1走永井は、三段跳でのダメージが懸念されたが、好調な出だしで2走につないだ。2走は好調な青柳で、追い風も見方して差を詰めた。バトンパスは、畠山の出が早いように思われたが、直線での加速のおかげで上手く渡せた。3走の畠山はやや加速が緩やかだったがしっかり走り、4走八木へ。バトンパスのタイミングは少々合わなかったようだが、大きな問題もなく、八木が意地で1チームを抜き、3着でゴール。決勝進出を果たした。

バトンパスのタイミングがしっかり合えば42秒台も出せるであろう。

男子 4×100mR 決勝

6位 42"71

永井(D2)-青柳(M2)-畠山(1)-八木(M2)

7レーンからのスタート。1走永井は少し出遅れ、その影響もあってなかなかスピードに乗れない。2走は好調の青柳。上手く加速し、差を詰めた。3走畠山は200mの疲れもあったようだが、しっかりまとめた。4走の八木は前にくらいつき6位という結果になった。

個々のスピード向上はもちろんだが、とりわけバトンパスの改善でタイムが大幅に伸びると感じられた。

女子 4×100mR 決勝

8位 54"80

菊池(4)-岡村(1)-房内(1)-須藤(4)

8チームによる一発決勝。8レーンからのスタートのためオーバーゾーンには気をつけたいところ。

1走菊池はスタートで良い反応を見せたが後半やや失速。2走の岡村はテークオーバーゾーンに入ってすぐのところでバトンを受け力走。こちらも後半失速気味であったものの無難に3走へ。3走房内の時点で他チームと大差がついていたものの懸命に走りアンカーへ。アンカーの須藤も粘りの走りを見せるが、8位でフィニッシュ。7位とは2"80差であった。

この時期の東北大のタイムとしては悪くないが、他チームとの実力差は大きい。現状では厳しい面もあるが、女子でも130mは確実に走り切る力をつける必要がある。

男子 4×400mR 予選

2-5 3着 3'24"16

柴田(4) - 遠藤(3) - 望月(4) - 佐々木(2)

4チームによる予選は気温16℃という肌寒い中でのレース。3位以内で決勝進出という前提でレースを組み立てることとなった。

1走柴田は良いスタートから加速、常にトップ争いを演じたが、他チームとの差はあまりつかず、2走で勝負をかける展開となった。2番手の遠藤は前半2チームに先行を許す。しかし後半に驚異の追い上げで前との差を一気に詰め、ほぼ3位以内が決まった。3走望月は4位との差をさらに広げるべく積極的に前を追い上げた。残り100mで2位とならび、そのまま4走に。4走佐々木は終始2位争いを繰り広げたものの終盤リードを許し、3着となったが決勝進出を果たした。

男子 4×400mR 決勝

6位 3'23"65

柴田(4) - 青柳(M2) - 望月(4) - 遠藤(3)

予選からメンバー、オーダーを変更しての決勝。今大会好調の青柳が加わり、好記録が期待された。7レーンからのスタート。

1走柴田はスタートからスピードに乗って軽快に走り、4番手争いを演じ2走へ。2走青柳は猛スピードで追い上げ、一気に前との差を詰めるが、最後の直線で失速し6位で3走へ。3走望月は前半に前との差を詰め、ラストで並びかけるが、スパートがやや早かったか、さしきれずアンカーへ。アンカーの遠藤は前半にしかけ、一度前を抜くが、残り10mで抜き返され6位でフィニッシュ。

タイムは良くなかったものの、インカレのラストを飾るレースであり、選手、応援がともに一体となることができた。

フィールド

男子走幅跳決勝

5位 永井 雅人(D2) 7m21(+1.2)

15位 鈴木 一輝(2) 6m53(+1.4)

17位 岩崎 辰哉(3) 6m25(+2.3)

雨だが、風はそれほど悪くなかった。

永井は2本目に6m86のベスト、続く3本目に7m21の大ジャンプでエイト進出。4、5本目はフェールだが距離は出ている。6本目も7m04と、7m台でまとめた。

鈴木は怪我による練習不足が響き、足が合わずに1、2本目をフェール。3本目は力んで板を踏まずに踏み切り6m53。

岩崎は助走練習では良かったが、本番は足が合わず6m25。高く上がっていないという宮崎さんの有難いお言葉を頂いた。

女子走幅跳決勝

14位 菊池 亜加里(4) 4m81(+1.5)

16位 飛内 茜(4) 4m16(+1.0)

飛内は昨日の三段跳でベストを出しており、期待された。菊池は三段跳の悔しさをぶつけてほしい。

飛内は助走が走れており、1本目から好発進、3本目に4m16を記録した。

菊池の1,2本目は最後に減速し踏み切り手前での重心の下げがなかったが、3本目はスピードに乗り、4m81を記録した。

飛内は雨且つ練習不足でこの結果なら今季はベストが出そうである。菊池は最後のリズムがほしい。

男子三段跳決勝

5位 長谷川 翔平(M2) 14m35(+3.5)

7位 永井 雅人(D2) 14m06(+2.1)

跳躍PC瀧澤が測量合宿で欠場という非常事態で院生のみ出場となった。競技開始前に強い風が吹き始め、2人とも助走が合わず不安の拭えないスタートとなった。

長谷川は序盤、持ち前のバネを生かした跳躍をするも踏切が合わず苦しんだ。5回目に強い追い風を味方につけ14m35と大きく記録を伸ばし、5位となった。

永井は1本ごとに修正を重ね、3回目に14m06を残した。4回目フェールの後、脚がつかけていたため残り2本を棄権した。

女子三段跳決勝

10位 飛内 茜(4) 9m36(+1.0)

菊池 亜加里(4) NM

日が射さず少々肌寒いものの、1m前後の追い風の吹く好条件となった。

飛内は1回目フェールの後、2回目で9m36を記録、自己ベストを更新した。

菊池は跳躍をうまくまとめられず、3本ともつぶれ、記録なしに終わった。助走でリズムを作れていないことと、踏切後の跳躍に思い切りに欠けたのがつぶれた原因と考えられる。スピードはあるだけに、技術を高めて今後期待したい。

男子走高跳決勝

3位 斎藤 達(3) 1m90

6位 岡本 聖司(M1) 1m85

永井 雅人(D1) NM

気温が下がり、雨も降り出しそうな中スタート。開始が1m85と高めであるが、参加人数が11名と少なく全員の入賞が期待された。

永井は3本とも足が合わず最初の高さを越えることができなかった。

岡本は最初の高さは難なく越えたものの、

90は3本とも腰で落とした。

斎藤は90を危なげなく1回でクリアしたが95は失敗した。3本目は足で落とすという惜しい跳躍であった。

永井は残念ながら記録なしに終わったが岡本、斎藤は無難に記録を残した。対校戦で確実に仕事をしたことは評価したい。次は記録を狙ってほしい。

男子棒高跳決勝

2位 高橋 理寛(1) 4m50

4位 白井 孝明(4) 4m40

8位 橋本耕太郎(M1) 3m70

久々の3人フル出場、4m90の記録を持つ高橋の加入という好材料により、東北インカレ最初の種目としてチームに勢いをつけることが期待された。気温はまずまずだが、風向・風速が不安定であった。

橋本は3m60を2本目でクリア。3m70は3本目でバーを揺らしながら何とかクリア。3m80では高さが出ず3本失敗に終わった。

白井は4m00からスタートし、2本目でクリア。1本目のミス修正し、十分な高さを出せていた。4m20は1本目ではバーに完全にあたるも、2本目できれいにクリア。4m30では、足を引っ掛けてバーを落としたが、またも2本目で成功。4m40も2本目でクリアした。4m50は惜しい跳躍もあったが3本失敗した。

高橋は4m00から開始、2本目でクリア。1本目は助走が合わなかったがきっちり修正した。4m20では1本目は踏切りが合わずに失敗、2本目は余裕を持ってクリアした。4m40は高さがきわどかったがうまくクリアランスして1発成功。4m50もクリアランスのうまさを見せて1本目で成功した。4m60では1、2本目は助走が合わず失敗、3

本目の助走は良かったが空中動作がうまくいかずに失敗した。

高橋は受験によるブランク、白井、橋本(M1)は学業での多忙で十分な練習が積めていなかったが、皆しっかり得点した。白井には跳躍本数過多による疲労が見られるなど、練習量の少なさが感じられた。3人ともベスト記録からみれば本調子ではないので、今後の試合での好記録を期待したい。

男子やり投決勝

4位 杉本 和志(2) 60m34

8位 伊勢 只義(M1) 52m61

13位 落合 裕規(4) 43m98

やり投げには去年七大戦で大会記録を出し優勝した杉本、今年宮教大から大学院に入学した伊勢、そして落合が出場した。

杉本は3投目まで4位の57m92をマーク。その後5投目に60m34を投げるが、順位が変わらずそのまま4位となった。

伊勢は3回目に52m61をマークしたが、4投目以降になかなか記録が出せずこの記録が最高となった。

落合は練習を積めていないためか、思うような記録を出せずに試合を終えた。

男子砲丸投決勝

4位 今泉 卓真(4) 12m59

空には雲が広がり時折吹く風は少し寒さを感じた。

1投目、上体が先行したがまとまっており3投目でも記録を伸ばし予選が終わって7位。5、6投目で記録を伸ばし良いかたちで競技を終えた。7ヶ月ぶりにしては投げがまとまっており、安定感を感じた競技であった。

男子円盤投決勝

2位 柳澤 邦彦(1) 41m89

6位 今泉 卓真(4) 38m25

柳澤は1投目から40mを超え、重量の変更により抵抗を感じていなかったようである。最終投擲でファールしており、集中力の持続が今後の課題となる。

今泉は専門のハンマー投に合わせるため、十分な時間を費やすことができなかった。そのせいか2、3投目でファール。しかし、決勝で徐々に記録を伸ばし4年生としての経験が感じられた。

2人とも入賞し、最初の投擲種目にしては良いスタートとなった。

男子ハンマー投決勝

2位 今泉 卓真(4) 53m44

15位 稲田 和明(1) 18m71

雨が激しくサークルに水が溜まり、ターンへの影響が懸念される中行われた。

今泉は1投目で49m62を投げ、好スタート。2、3投目ではファールを気にしない力強い投げを見せて記録を伸ばし、53m44の自己ベストで1位に躍り出た。しかし、決勝ではターンがまとまらず、全てファール。最後に逆転を許し、2位となった。

稲田はハンマー投を始めて間もないが、1投目で18m71を投げ、記録を残した。2、3投目は思い切りのある投げであったが、記録アップには繋がらなかった。結果は15位。良い経験となった。

混成競技

男子十種競技

3位 渋谷 知暉(1) 総合得点 5176

11"75(+1.7)-6m03(-0.4)-7m93-1m75-54"27-16"25-20m22-2m70-40m70-4'55"19

4位 藤井 翼(1) 総合得点 5107

11"58-5m69(-0.6)-9m28-1m65-54"17-17"86-21m81-3m30-39m71-5'00"51

5位 八柳 暁(1) 総合得点 3959

11"98-5m42(-0.7)-7m39-1m50-54"47-20"96-18m08-NM-31m96-4'43"27

1年生3人が出場した。出場者5人という少人数での戦いで、最低でも1人が表彰台に立てる状況であった。

渋谷は走幅跳で点数を稼げなかったが、走高跳や110mH、やり投げで点数を稼ぎ、4位と70点差で3位に滑り込んだ。

藤井は100mで好タイムを出したあと、砲丸投で思い切りの良い投擲をし、点数を稼ぐ。棒高跳では3m30で手堅く記録を伸ばした。

八柳は混成競技を大学から始めた。練習ではハードルを跳ぶことさえ怖がっていたが本番では全競技を終えることができた。棒高跳の記録なしは残念だが1500mでは快走を見せた。

全員400mが54秒台であり、ここが点数アップのカギである。まだのびしろはたくさんある。

#自己記録更新者一覧(11/9~1/17)

・800m

田村 淳(2)	1'57"51	(学連春季)
川口 亮平(M2)	1'58"81	(")
須藤 彰子(4)	2'34"2	(")

・1500m

大場 直樹(3)	4'09"54	(仙台市長距離記録会)
尾形 洋平(2)	4'16"46	(")

・5000m

大場 直樹(3)	14'54"74	(東北インカレ)
林 亮輔(M1)	15'38"61	(仙台市長距離記録会)

・10000m

林 亮輔(M1)	32'43"30	(学連春季)
----------	----------	--------

・110mH

永井 雅人(D2)	15"67(-0.7)	(東北インカレ)
-----------	-------------	----------

・ハーフマラソン

林 亮輔(M1)	1° 11'19"	(仙台国際ハーフ)
----------	-----------	-----------

・走幅跳び

永井 雅人(D2)	7m21(+1.2)	東北大歴代 2 位 (東北インカレ)
-----------	------------	---------------------------

・三段跳

永井 雅人(D2)	14m36(+1.9)	(学連春季)
-----------	-------------	--------

・ハンマー投げ

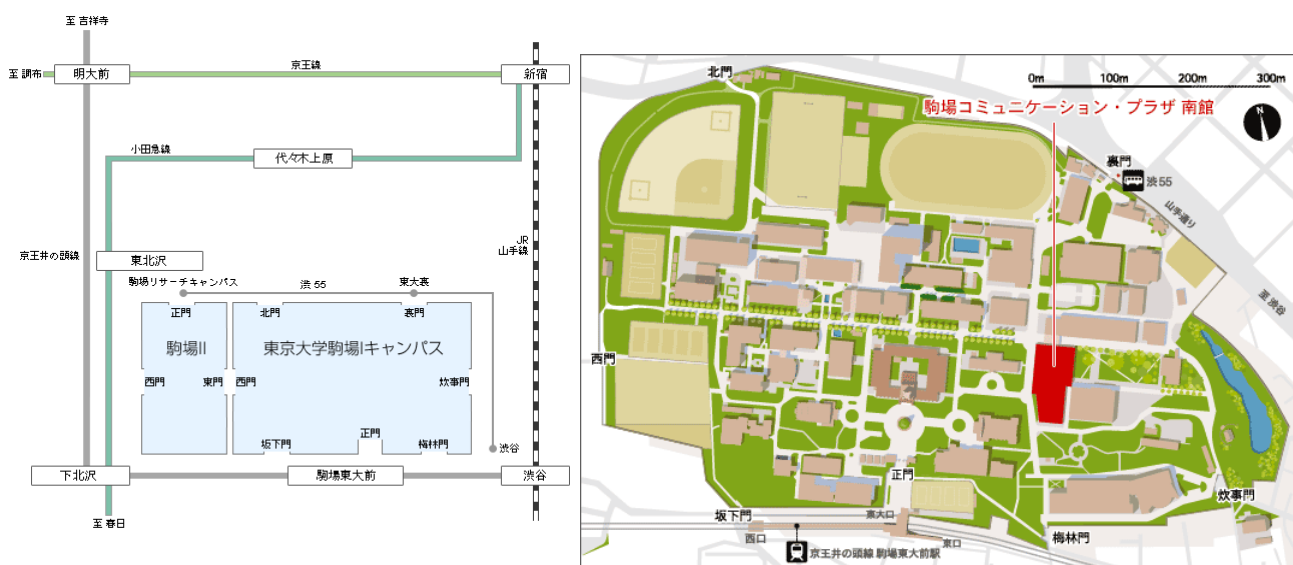
今泉 卓真(4)	53m44	(東北インカレ)
----------	-------	----------

#お知らせ

- ・三秀会関東支部から「七大戦 OB・OG 懇談会のお知らせ」について

標記の通り七大戦 OB・OG 懇親会が開催されますので、満障お繰り合わせのうえ、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

- 1 日時 7月25日(土) 18時～19時30分
- 2 場所 東京大学駒場キャンパス
コミュニケーションプラザ南館2階食堂
〒153-0041
東京都目黒区駒場3-8-1



- 3 会費 一人4000円
- 4 その他 恐れ入りますが、7月10日までに Fax か電話またはメールにて出席の通知をお願い致します。

連絡先：渡辺 実

メール：nabe@mxh.mesh.ne.jp

Fax 番号(電話番号も兼用)：0480-58-9292

三秀会関東支部 幹事 川野部修 柴田清 渡辺実 三浦得雄

#今後の予定

6月20～21日 北日本インカレ 宮城スタジアム
7月4日 北大戦 仙台市陸上競技場
7月25～26日 七大戦 国立競技場、大井 ほか

#編集後記

今回から、種目ごとの記事を1、2年生にタイプしてもらうことにしました。これはかなり私の労力を削ることができました。もしかして本来こうあるべきだったのかもしれない。

先日、健康診断がありました。小学校のころは1年に1回のこのイベントを心待ちにしていたものです。身長が何センチ伸びたかなど友達と競いましたが大学の健康診断は恐怖です。一人暮らしになり栄養のバランスなどを考えないで行動してしまうことが多くなり、まさか自分が病気をもっているのではないかと思いビクビクしていました。特に血圧計が恐怖です。でも計らないわけにいかないのしぶしぶ腕を突っ込み、圧迫され、出てくる紙に祈りをささげ、・・・ホッと胸をなでおろしました。

今年一年、どうか健康に。

文責 副務 新沼 啓 千葉 絵里子